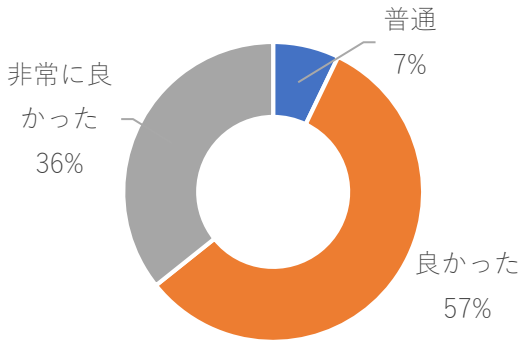
２０１９年２月２６日に、結核研究所において開催しました「入国前結核健診に関するセミナー」に関し、参加者の方にアンケートをお願いしました。回答してくださり、かつ内容につきまして「公開可」としてくださった４４名のご意見について紹介します。

１）今回のセミナーの内容についてあてはまるものを〇で囲んでください。
・非常に良かった　・良かった　・普通　・あまり良くなかった　・良くなかった



結果：93%（n=39）の方が「非常に良かった」もしくは「良かった」と回答されました。

2）今回のセミナーに対して、１）にお答えした理由をお書きください。

英語資料である意味は？通訳が同時でないのなら配付資料を和訳して配って、後はリスニングに任せた方が字幕のように使えて効率が良いと思う
厚労省の先生の資料だけでも日本語でほしかった
入国前健診がなぜ行われているか、その理由や効果などがとても詳細にわかり大変貴重なセミナーを開催していただけたことに感謝いたします。事業実施にはクリアすべき課題が多くあることスクリーニングで終わるのではなく発見された患者の治療支援など全体的なことが理解できました
入国前健診を考える機会としてとても充実したセミナーだと思いました。もっと時間がほしかったです。 改めて日本は遅れているのだと感じました。職場に持ち帰り学びを深め導入に備えようと思います。
入国前健診について具体的にイメージすることができました。日本に入国する方たちが TB を発病していないかチェックするということだけでなく、移民の方たちの健康を支援する広い視野を持つことが必要だということがわかりました。
具体的な実施計画についてもう少し聞きたかったです。スケールが大きい話だったので実際に外国人を受け入れる現場としてどのような役割を果たしたら良いか想像しづらかったです。 日本語学校での結核患者も増えているのでこのような健診が始まるのは良いと思いました。
入国前結核健診の難しさ、課題について具体的に聞くことが出来たことが大変参考になりました。 入国する人の背景について認識し、健診や対応していくことの重要性を再認識しました（どんな手段を使っても入国しようとする人がいる事情）入国後の健診や必要な者へのフォロー体制についても引き続き整えることが必要なのだと認識しました

普段聞けない方の話が聞けてとても有意義なセミナーでした。資料も英語だったので少し残念でした。
日本での具体的な導入方式などについてはまだ具体的ではなかったこと、オーストラリアのインターネット制度などが当面日本には導入されそうにないのかな、と思えたことが少し残念でした。
オーストラリアの入国前健診の歴史が長く驚きでした。制度として整っていることは素晴らしいと思いました。今後日本が行う制度について（わからないこと、どうなるのかイメージがつきませんでしたが）課題提供していただいたことでよく分かりました。
資料がわかりやすかった。通訳が聞こえにくかった。何を言っているのかわかりにくかった、もっとゆっくり話してもらえればよかったかもしれない。”移民は何をしてもビザを取りたいと思っている”ことに対する対策が興味深かった
入国前健診の導入の背景が理解でき、日本だけでなくグローバルな問題であり公衆衛生上重要であることが分かりました。この制度と現場の保健所でできることは何か、疑問に残りました。
日本での今後のだいたいの方針がわかりましたが、あまりにもシステム的な不足がわかり、とても不安な船出だということがわかりました。他国の様々な例、失敗例もわかり（パネルの不正など）完璧なものはないということも理解できました。さて、今後どのようにマネージするのか、、、。
入国前健診の進捗について知ることができた。移民施策について最前線に立っている方の現場での声が聞けたことが勉強になりました。各国の手技はそれぞれ違っていて明確なエビデンスがないことが印象的で、今後法改正と共に自らがどのような事業展開を行うべきか、考える良い機会になりました。
実際のデータを知ることができた（オーストラリア、UK などの pre screening の実績）
オーストラリアの入国前健診について、とても詳しく教えて下さりよかった。国別 WHO の罹患率とオーストラリア健診の発見率を比べるスライドが面白かった。IOM の取り組みは、多岐にわたり大切な活動をしていることが知れて良かったです。入国前健診をするだけでは対策として不十分ということが印象に残りました。Paul 先生のお話は、刺激となりました。
昨今の外国籍登録患者の増加にみる様々なハードルが少しでも下げられるという意味で、今後日本がやろうとしていることがわずかではありますがわかった気がしました。
オーストラリアでの入国前健診の流れについて知ることができた。他国は時代の流れとともに（移民が入ってきたことで）TB の入国前健診のシステム構築ができているのに日本は先進国の中なのに対応が遅いのではないかと感じた。日本もアジア系の入国者が増加してきているので、早く入国前健診ができるようになるとよいなと思いました。
入国前結核での考え方は、ベースに日常の結核対策があってこそだと感じました。人権や TB についてのイメージとの戦いは続くし、入国前でのスクリーニング、follow-up をきちんと日本国内で継続できる体制が整えばと思います。提携医療機関や画像やデータが上手く活用できるとよいなと思います。入国前→入国後もつないだシステム・情報提供（アプリケーションの提供等）がすごいと思いました。オーストラリアはじめ、IOM 加盟国で入国前健診を行っている国が、TB をかなりコントロールできていることがわかった。

入国前健診をしていない日本で TB 治療支援が大変なのは〇〇せいでなく、これから日本も長く入国前健診を効率的に対応できるようになり加重な徒労になりがちな入国後対応から
入国前スクリーニングを実施していく上で具体的な動きについて見えていなかったが、オーストラリアでのスクリーニングや UK の IOM との連携などご講義いただき全体像を理解することができました。
移民は決して小さな人口ではなくその健康支援をしなくてはならないという考えは、これまでの日本にはない考え方であり、改めなければならない。”移民を止めることはできない”という言葉は考えさせられた
Australia を例として移民難民に対してどのような結核健診のシステムを行っているか詳しく説明していただきました。今後のビザ審査にも絡んでいるので参考になりました。
健診の流れについて知ることができた。
オーストラリアの入国前健診を含めた結核の現況を知ることができた。今後外国出身者の増加に当たり、入国前健診の必要性についてあらためて学ぶことができた。
IOM で行っている活動内容及び入国前スクリーニングの有用性について知ることができた。現在日本で対策を進めている入国前スクリーニングの現状とその内容について知れて良かった。
国が計画している新しい施策について最新の情報を聞くことができ大変有用であった。
通訳の方が早口で聞き取れない場面があった。時間が短かすぎる
入国前健診やその後のフォローについて知ることができたため。短期滞在でも長期の滞在でも入国後すぐに塗抹陽性で入院して言葉も分からず、自国に戻って治療したくても帰れない人を何人か見てきているので、入国前に発見して、自国で治療ができたら発見してもらえた人も安心して治療に臨めるのでは、と感じました。
現在の進捗が理解できた
入国前健診で日本の準備がどこまで進んでいるのか健診は何をやるのかがわかった。また Australia の入国前健診とその後のフォローについて興味深く学べた。入国前健診での発見率が高いのは、今後日本でも期待したいと思った。
オーストラリアの Medical システムを使った入国前健診と入国後のフォローアップ体制は素晴らしいと思いました。日本において入国前健診が導入されるに当たっても、できるだけオーストラリアのような仕組み構築を目指してほしいと思います。または英国同様、IOM の仕組みに乗っかることはできないのでしょうか。結局、対象国の指定クリニックの精度管理が担保されないと効果は半減してしまい、そこの部分が現在日本が考えている紙ベースの仕組みでは弱い気がします。
わかりやすい言葉だったが、訳してほしい単語をそのまま英語で伝えられても伝わらない。日本とオーストラリア IOM の活動を比較でき、日本はまだまだ始まったばかりでこれからなのだと認識した。
入国前健診の意義とまた導入後も TB 対策は重要である（LTBI は入国する）、ということが確認出来た。海外での知見を知るよい機会となったため、経験が蓄積されている海外での事例を知ることで、日本の施策についてより深く考えることができる。日本に導入された後に起こり得る問題など、考える上でのよい情報となった。

入国前健診の必要性だけでなく意義も理解できた。
厚労省からの資料は日本語のものを提供してほしい、通訳の方ごくろうさまでした。
英語が分からなかったので、スライドが載っていない部分の訳はついていくのが大変だったが、なぜ入国前 TB 健診が取り上げられているのかはよくわかった。
入国前スクリーニングを実際に行っているオーストラリアや英国の具体的な状況がわかって良かった。 限界もありますが、外国生まれの方からの結核患者が半分くらいになるのを期待しています。
長い歴史と経験のあるオーストラリアの pre-entry TB screening を学ぶことができて良かったです。また、after-arrival の follow up について、今後日本でどのように整備されていくのか考えていく必要性を感じました（現状ではフォローアップの計画がないということに驚きました）。e-medical で X-ray が共有できたり、全ての国の人を screening 対象にしている Aus と日本では違いはありますが、Australia から学ぶことが多いと思いました。日本に関しては移民局のように包括的に移民の生活をみるところがなく、法務省、外務省、厚労省とたてわりになっている点も今後改善し、スムーズなコミュニケーションや連携ができるようにすべきだと感じました。
入国前健診の先例、世界の動き（IOM について）を学べる機会として良かったです。 厚労省の現在の動きもナマでわかり（これからまだまだ越えるべきことも多いようですが）、見通しがついて良かったです。
日本における入国前健診の概要について聞くことができて良かった。IGRA 検査が導入されるといいと思っていたが、LTBI 治療がきちんと行われる保証もなく、中途半端な治療は体制の問題もあるため IGRA 導入に難しいということが理解できた。まずは、高齢者結核対策など日本の結核患者を減らす対策をきちんととっていきたい。入国前だけでなく入国後の対応も重要。
入国前結核健診について研修がなかったので、今回参加できて良かったと思う。技能実習生を受け入れている受け入れ先や事業所の方々からも相談を受けますが、詳細な回答ができず”〇〇だろう”くらいな回答しかできませんでした。実際にまだどうなるかは揺れている部分ですが、今後徐々にはっきりしつつ、修正されていくものとわかりました。

3）今回のセミナーに対して、もっと聞きたかったこと、知りたかったことなどありましたらお書きください。

何で法文上、上陸禁止だったはずの患者が今まで野放しだったのか、本国送還もされていなかったのか。 治療を拒否して帰国した患者が再来日していると知った時の怒りややるせなさを考えればヘラヘラ笑ってやることにしました等と言えないはずだ。要は今までが国のレベルで怠慢だったと言うことではないか。
指定医療機関の数、発見後、実際の治療内容（各国に精度管理はまかせられているのか？）。
日本における入国前健診について今後のスケジュールの詳細がもう少し具体的に聞きたかった

質問が濃厚でした。オリンピックに向けて（所在地だとホテルとなるため)LGBI、性感染症なども含めた話が聞きたかったです。LGBI の教育など日本は遅れているため。
入国前健診実施前後の TB 対策の変化や実施における効果について聞きたかった。入国後健診やフォロー体制との連携の事例の実際、入国前健診～各フォロー機関との連携、情報共有の体制について聞きたかった。
入国前健診だけでは完全に結核を入れないようにするのは無理だというのはわかりました。ではそうした海外からの学生を受け入れる側は、入国後のチェックをどのようにしたらいいのか、入国後すぐにもう一度検査すべきか、その後も定期的に検査すべきか、その場合はどれくらいの期間ですべきか。そうした指針のようなものも是非同時に示していただけると助かります。それぞれの学校で判断をと言われると、必ず検査を怠る学校が出ると思います。そのような情報も是非共有させて欲しいです。法制度化が難しいなら指針でも良いので。
今後日本では入国後のフォローについてどう考えているのか
健診、治療費等の費用負担はどこが担うのか。患者が発見された後の疫学調査、接触者健診を担う機関情報共有等の管理。米国の治療薬は、日本で承認される可能性があるか。外国籍の TB 患者の支援は、TB の治療をしていくには生活そのものの支援も必要であり、言語の問題等、課題が多い。外国 TB 患者で入国前健診の情報を得る時の手続きは？その結果をどこに報告し蓄積していくのか。
日本の今後の方針について確定したこと等をこのような機会、もしくは厚労省の HP で明らかにしていただけるとありがたい。とても有用な貴重な機会でした。Open な会としていただきありがとうございました。
国内での患者は減少傾向であり、TB を診ることができる Dr が少なくなってきている中で、遠方の医療機関に通うケースも多い。今後入国前健診を行うに当たって、TB を専門に診てもらうことができる医療機関を増やしていくような予定があるか知りたい。
いかに効果的に国内の外国人 TB の削減が期待できるかということについて、もう少しまとまってシステマティックの共有と紙データにしていただけるとよかったです。他の国の実績や移民の背景の違いによるデータもあれば。
当県の他の担当者にも共有したい。資料が英語だったりよく聞き取れなかったので、今日の内容を日本語でまとめたものがあればほしいです。
オーストラリアでの予防接種（ワクチン NS 等）コメディカルも活用した入国前の TB 以外も total な健診の実例。LTBI 治療（11 才以下）の学校健診等の対応について→学校健診もまた外国出生の方が増えているため、母子保健の対応も含めて気になります。人権問題について（偏見）継続対策の支援お願いしたいです。
日本では入国前 or 後健診を受けるための費用・交通費等の負担はどうするのか。 指定医療機関は 1,2 箇所となった場合、そこまでの移動の手間が生じると思う。入国後フォローも必要と思われるが費用や手間がかかると受診率が下がってしまうと思われる。

不正をした者の具体例や、実際の不正件数について知りたい。
日本での対策としてどこに重点を置くべきか、ハイリスク者への支援方法をどのようにしているのか、もっと詳細が聞けると良かった。治療中やフォロー中の支援体制や方法についても知りたい。なぜ日本はアメリカやオーストラリアで使用している薬剤が認められていないのか、他国に比べて結核患者の対応があまり進んでいないのか知りたい。
日本に入国後は、健康診断については労安法によるものだけなのか。入国前健康診断を実施する医療機関の安全性等をどこが担保するのか。
ビザ更新者は日本国内で健診を行うこととなると思うが、その指定医療機関はどうなるのか、
オーストラリアの移民医療に対する考え方で、オーストラリアの地域に対してコストのかかる疾患は入れない、というのは移民の歴史が長い国ならではの法的整備だと思いました。
清瀬は遠い、都心でできないだろうか。
管内にもフィリピンの患者が多くいる。患者として登録になった際、入国前スクリーニングの結果がどうだったのか、確認する方法。入国前健診導入を踏まえ、各保健所や自治体に求められる点について詳細に伺えると更に深まり、業務の方向性にも活用できると感じました。
数次ビザを健診対象にした場合の具体的方法→最初に取得した時に OK でも（ビザ有効期間）その後も母国で高いリスクに曝されていると考えられるため、一度 OK なら本当に OK なのか。日本における導入準備はかなり途上のように感じましたが（もちろん公にできない部分もあることは承知しています)、諸外国の事例・知見をもとに体制を十分に整えて導入することは難しいのでしょうか。スクリーニングで要治療となった場合の治療機関は、特に指定はないのでしょうか。LTBI を含めることや入国後フォローアップの必要性について、日本の場合どのような経緯で現行の方針に決まったのか。
今回セミナーについて結研 HP にｕｐして下さい。
IOM が 1 年間に扱っている健診と日本が行う健診がほぼ同数というけど大丈夫なのか。移民の数は他国の方が多そうなのに、なぜ日本の数が IOM の人も驚くような数になるのか。 ポール　ダグラス氏の話に、今後は短期入国を繰り返す人の健診も考えないと、という話がありました。現場でも実際に、日本に住む家族の介護や一時的な世話で入国してきた人の TB 発病＋接健という事例があります。調査に入る頃には pt は飛行機で帰国していたりで大変でした。中国の方など（他の国もあるかもしれませんが)、子供を産むと乳子のために住民票を登録し、そのまま中国へ子供を（祖父母に預けに行き健診やワクチン、受診の時だけ子供と入国してくる人たちもいます（日本の医者の方が信用できそうです)。現場では珍しくない光景なので、感染症対策としてはこういう人たちの健診も是非必要だと感じています。
入国前スクリーニングの導入について結核部会で議論いただき、それが実現できる方向性となって良かったです。今後は、今日の講演でもありましたが、日本での post-arrival follow-up のしくみも議論していただければ幸いです。

after-arrival の follow up の部分の実際について、もっと知りたいと思いました。保健所が実際に係わっていく部分としては after-arrival が多いと思ったのです。今回は pre-entry に関するセミナーでとても学びになりました。保健所職員としては今後 local community level での対応など実践的な部分を学びたいと思いました。今後もぜひこのようなセミナーがあるとうれしいです。
（既に情報共有されているかもですが）状況を全国保健所長会等にもお知らせいただければ良いと思います。 入国前健診の状況は、入国後に保健所が把握できる system となるのか？シャットアウトだけ？なのか。ビザ No などで問い合わせれば状況が確認できる system とするのか？活動性の TB を発見したとき、その国内での治療も受ける方向があると思うが、その国のシステム内での加療はその国の方針となる（無料ではない？）。その場合日本から支援するのか?オーストラリアではどうなのか？
海外から旅行者として入国し、日本で TB 治療をしにくるというケースがでています。旅行者という短い期間の方々に対しての取り組み・今後の方向性についてもう少し聞きたかったです。